

北九州学術研究都市を想定したコミュニティの 持続可能性評価指標に関する検討

北九州市立大学 国際環境工学部 環境空間デザイン学科

学生会員 渡辺祥夫

正会員 松本亨

1. はじめに

1. 1 背景

もともと国際的な議論として提唱されてきた「持続可能な発展」という概念であるが、近年、むしろ「地域からの」持続可能な発展が注目されている。それは、多様で創造的な政策が地域自らのイニシアティブで、地域に根ざした政策・対策として実施されているからである。そこでは、地方政府のみならず、産業界、地域住民、NPO などあらゆる利害関係者を包含した「ガバナンス」が新たな潮流として指摘されている。これは、主にまちづくりの分野を端緒として、次第に様々な分野に拡がりを見せている。

本研究では、コミュニティの持続可能性を対象とするが、その場合大きく2つの役割を有していると考えられる。第一は、「持続可能性」追求のための階層構造の1つとしての位置づけである。すなわち、国際レベル、国レベル、地方自治体レベル、コミュニティレベル、世帯レベルというヒエラルキーの一層を担うものとしての役割である。一方、まちづくり活動の一環という位置づけがある。「持続可能性」追求は、地域住民が協働して取り組むことでまちづくりの機運を盛り上げる際の共通の目標として位置づけられる。これが第二に想定される役割である。

以上のような背景、認識のもと、本研究では、北九州学術研究都市の中に立地する宅地を対象としたコミュニティの持続可能性マネジメントに関して検討することを目的とする。コミュニティの持続可能性マネジメント手法については、Global Ecovillage Network(GEN)の開発した環境評価ツールである Community Sustainability Assessment (CSA) がある。これを参考にしつつ、都市部に立地する新しいコミュニティを対象とした CSA のための評価指標を検討する。

2. 持続可能性マネジメントのための指標の比較

2. 1 評価対象スケールによる比較

表1は、国や都市レベルの指標と、GEN-CSA の評価指標を対比させた表である。

これを見ると、大きく3つの相違点を指摘できる。第一に、環境指標の内容の違いである。国及び都市レベルでは、対象とする地域内外の比較的広い地域を対象とする問題が並んでいるのに対して、GEN-CSA では、身近に感じるこのことのできる問題が取り上げられている。第二

に、国及び都市レベルでは、経済、雇用、人口等、社会経済に関するマクロ指標や制度インフラが挙げられているが、GEN-CSA ではほとんど見あたらない。一方、GEN-CSA では文化・精神に関する指標が多く挙げられているのに対して、国及び都市レベルではほとんど見られないという相違があることがわかる。

2. 2 都市部コミュニティの特性を考慮した指標の要件

ここで、GEN-CSA の特徴を整理する。まず、環境評価ツールであるにもかかわらず、社会・経済、精神・文化の側面からの評価が包括的に組み込まれていることが挙げられる。これは持続可能性は環境面のみでは達成されないという概念が反映されたデザインであるといえる。また、従来の評価ツールと比べて CSA には、自分達で長所・短所を知りながら、無理のないように活動が続けられる住民参加型のツールであるという特徴がある。さらに点数制であるので客観的に結果を見て、新たな活動の展開や今までの行動の軌道修正・変更を行える。評価ツールとして活動を展開しながら、より多くの意見を反映できる点は、従来の評価ツールでは難しかったことといえよう。さらに、住民自ら評価することで、評価の結果だけではなくマネジメントサイクルの計画 (Plan) → 実施 (Do) → 確認 (Check) → 対策実行 (Action) というプロセスを通して、自立的なコミュニティの再生ツールとして適用できるという特徴もある。今後の方向性を決めるための多くのヒントが評価自体に内在されているため、住民は自立的に活動を展開できることが指摘されている。

これらの GEN-CSA の利点も活かしながら、北九州学術研究都市ひびきの版の CSA を検討する。前述したとおり、都市部であることとまだ街開き間もない新しいコミュニティであることが特徴である。そのため、評価指標の検討においては、次のような点を考慮する必要があると考えられる。

1) 食の供給、職場、自然環境、利便施設等について域内で完結するものではないことが前提となること。

2) 伝統的な行事というものが皆無であるため、文化の持続性等より新規創出、それによるまちの活性度が重視されること。

3) 新しい宅地であるため、まちなみ等の外観や音環境などの住空間についても重視されること。

国レベルや都市レベルと比べて、その地域独自のアイデアを生かせる一方で、うまく活動が続くコミュニティ

活動とそうでない活動があるため、要因についても考慮する必要がある。つまり、住民の結束力や行動力、協力団体等とのつながりなど、コミュニティのマネジメント能力についての把握も要件となろう。

3. 北九州学術研究都市を想定した指標の検討

指標は、環境、快適性、まちの活性度、安心・安全の4つの大分類に分かれており、さらにその下に11項目を含む。項目は、環境の下に、ごみ、エネルギー、水資源、二次的自然の4項目、快適性の下に、音環境、まちなみの2項目、まちの活性度の下に、住民交流、教育・文化財産の2項目、安心・安全の下に、健康、防犯、交通の3項目が位置づける形態とした。

指標については、P（圧力）、S（状態）、R（対応）の各側面を網羅することし、3つの主体（個人、地域住民、地域資源）とのマトリクスで整理する。個人とは、評価を行う個人または世帯単位までで行うことができる活動・行動を意味する。地域住民とは、地域の住民が数世帯単位、つまりコミュニティ単位で行う活動を指す。地域資源とは、地域の住民が共有する資源としての自然や利便施設等、ハードがあれば実行可能な活動を指す。

なお指標のS（状態）の考え方は、領域（issue）ごとに異なることに留意が必要である。例えば環境問題に関係する領域では環境調和性の度合いがS（状態）である。

一方、防犯の領域では、安全性の度合いがS（状態）であるし、住民交流の領域では、地域活性度がS（状態）である。

4. 今後の課題

課題は以下の2点である。

- 1) 住民アンケートの実施による評価指標の選定
- 2) 住民アンケートの結果も踏まえつつ、望ましいCSAのマネジメントシステムの検討・構築

指標については、アンケートによるボトムアップによる提案と、第三者的立場から提案も含むトップダウンによる提案の双方が整合的・網羅的な指標構築のためには必要であると考えている。それぞれトップダウン型とボトムアップ型のアイデアを受けて構築される必要があると考えている。

参考文献

- 1) 畠中雅英、『地域自治を促すまちづくりの手法に関する研究—環境評価ツールCSAのケーススタディーを通して—』
- 2) 宮本 茂：環境評価ツール(CSA)を活用した、循環型地域づくりの可能性、月刊NIRA政策研究，Vol.17，No.10，pp.60-65，2004

表1 指標の比較

	国連* CSD	イギリス* 政府 headline指標	アメリカ* PCSD	都市 シアトル* Sustainable Seattle	ハミルトン* VISION2020	コミュニティ GEN* CSA 評価指標	ひびきの版CSA
主な項目	環境 制度 社会 経済	環境保護 社会的な進歩 経済成長	環境 社会 経済	環境 社会 経済		環境 文化・精神 社会・経済	環境 快適性 まちの活性度 安心・安全
項目の内容	環境	土地利用	自然保護	環境	都市部の土地利用	【環境】 土地の感覚	【環境】
	土壌				自然域と回廊		二次的自然
	生物多様性	野性生物			大気質の改善		
	大気	空気質					
		道路交通			輸送形態の転換	食の調達可能性、 生産と配分 物理的な基盤整備、 建物、交通 消費パターン と廃棄物管理	ごみ
		廃棄物			廃棄物の削減と管理		
			持続可能な コミュニティ スチュワードシップ				
	大洋、海、海岸 真水	河川の水質			水資源の質の改善	水 排水と水質汚染管理 エネルギー源と エネルギーの使用	水資源 エネルギー
					省エネルギー		
	文化				芸術と遺産	【文化・精神】 文化の持続性 芸術と娯楽 霊性の持続可能性 コミュニティの共通指標 コミュニティの回復力 新しいホロクラフィック で循環的な世界観 平和と地球的な意識	【快適性】 音環境 まちなみ
			国際的な責任				
	社会	教育	教育	文化・社会 青少年・教育	教育 コミュニティの福利 と潜在能力形成	【社会・経済】 教育 コミュニケーション ネットワークの 伝達範囲とサービス 健康 公開度、信頼、安全 社会の持続性	【まちの 活性度】 教育・文化財産 住民交流
		健康 安全 公正	健康 犯罪 貧困と社会的排斥	公平性	個人の健康と福利 安全と保安		【安心・安全】 健康 防犯
	人口		人口	人口・資源			交通
	住宅	住宅					
	経済	雇用	市民の雇用	経済	地方経済 農業と農村経済	持続可能な経済	
	経済構造	経済的な出力	経済の繁栄				
	消費と生産	投資					
	制度	制度化した体制 制度化した適応性					

* 指標については、それぞれのホームページを参照